

081 三度目のガリラヤ伝道(3)

マタイによる福音書 10 : 34~11 : 1 (ルカによる福音書 12 : 51~53、14 : 26~27、マルコによる福音書 9 : 41)

34 「**わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っ**てはならない。平和ではなく、**剣をもたらすために来たのだ。**

→ユダヤ人たちがイエスを受け入れていたなら、平和が来ていたが、彼らはイエスを拒否したので、剣をもたらすような結果になった。

→(回復訳解説) 全地はサタンの横領の下にあります(Iヨハネ 5:19)。天の王は何人かを、サタンの横領の下から召し出すために来られました。これは必ず、サタンの反撃を呼び起こします。サタンは、彼の横領の下にある者たちをそそのかして、天の王が召した者たちに敵対させました。ですから、王の到来は平和ではなく、剣をもたらしたのです。

35 **わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。** 36 **こうして、**(イエスを信じる者にとって) **自分の家族の者が敵となる。**

→ミカ書 7 : 6 息子は父を侮り／娘は母に、嫁はしゅうとめに立ち向かう。人の敵はその家の者だ。

37 **わたし(を選ぶ)よりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。**

→(回復訳解説) わたしたちの愛は、主に対して絶対的でなければなりません。わたしたちは何ものも、彼以上に愛すべきではありません。彼はわたしたちの愛に最もふさわしい方です。わたしたちは彼にふさわしくなければなりません。

→ルカによる福音書 14 : 26 : イエスへの愛を第一に

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」

38 **また、自分の十字架を担って(→取って)わたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。** 39 **自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。」**

→(回復訳解説) キリストは父のみこころを取って、十字架につけられました(マタイ 26章)。彼はバプテスマされた時、十字架につけられたものと勘定されました。その時から、彼はご自身の十字架を負って、神のみこころを行なわれました。彼に召された者たちは、彼と同一化されました。主は彼らに自分の十字架を取って、彼について来るように、すなわち、自分を捨てることによって、神のみこころを取ることを求められました。これは、どんな代価を払ってでも、彼らの愛をまず主にささげることを要求しました。それは、彼らが主にふさわしい者となるためでした。

40 「**あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。** 41 **預言者(である弟子たち)を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者(である弟子たち)を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。**

42 **はっきりしておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」**

01 イエスは十二人の弟子に指図を与え終わると、そこを去り、(ガリラヤの町やイエスの弟子たちが暮らした)方々の町で教え、宣教された。

→聖書に「宣教」は 25 回、24 聖句に登場する。「伝道」は、マタイ、マルコ、ルカによる福音書の小タイトル「ガリラヤで伝道を始める」で 3 回登場する。